



生徒を引きつける導入の在り方

—授業のプロローグをいかに展開するか—

元全国中学校社会科教育研究会会長 赤坂寅夫

その一 授業における導入の意義

プロローグ…「音楽・戯曲・小説などで、作品全体の流れや意図を暗示する前置きの部分」(広辞苑 第七版)という言葉が示すように、私たちは作品を鑑賞するときにプロローグの部分で作品に対する期待をもち、引き込まれていきます。学校での授業も同様に、導入の部分で単元や1時間分の授業への期待を高めます。逆に考えると生徒の興味・関心を引き出せない導入は意味がないといえます。導入のよし悪しがその後の授業の展開や生徒の学習活動に大きな影響を与えます。

1単位時間のごく一部でしかない導入部分ですが、どの教材を提示しどう問いかけて生徒の興味・関心を引き出そうとしているのか、授業者の指導観・教材観が導入における工夫に表出されるのです。

ポイント①



導入は、その授業を価値づける

その二 興味・関心を引き出す教材の提示と発問

授業における導入の意義は先ほど述べたとおりですが、それでは生徒の興味・関心を引き出すためにはどのような工夫が必要でしょうか。生徒がおもしろいと思う教材(資料)を用意し、おもしろい問いかけをするだけでよいのでし

うか。「導入」とは本題に導き入れることであり、本題とは授業のねらいであることから、単におもしろいだけではなく授業のねらいに迫る教材であり発問でなければなりません。

「おや?」、「なに?」、「えっ、本当に?」などの生徒の素朴な疑問を引き出し、それに対して「なぜ?」、「どのようにして?」などの問いかけで生徒の思考を導き、その後の学習への意欲を高めることが大切なのです。しかし社会科の授業では社会事象の認識をねらいとしているので、単に生徒がおもしろいと思う教材や発問では社会科の学習としては不十分です。「おもしろい」の後に「よし、やってみよう!」と追究意欲をかき立て追究を持続させるエネルギーをもたせるだけの教材と発問の質が求められます。これまで私が参観した社会科の授業研究の際に好評を得た導入時の教材と発問は、生徒の予想と事実とにズレがあり、結論が思いがけないもので、生徒にとって矛盾や意外性が感じられるものです。生徒は、自分の経験や既存の知識や見方・考え方では解釈できない意外な事実や事象に出会うことによって追究意欲がかき立てられるといえます。また追究によって得られる結論=答えが、書籍やインターネット等で生徒自身の手で収集でき、生徒の思考で論理的に導かれたものであることが、社会科の学習として求められる導入時の教材と発問の質といえます。生徒の疑問(?)を引き出す教材と発問で学習意欲を喚起し、最後に「なるほど!」と納得する解に導く学習展開につなげる導入として

いきましょう*。

生徒の興味・関心を引きつける教材としては、意外性の強い教材が効果的ですが、このような教材

を用意するには常日頃の教材研究、情報収集力が必要です。授業者自身が関心をもって、新聞、テレビ、書籍、インターネット等に目を通し、授業に活用できる資料を収集し、その中から導入として活用できる資料を教材化し、生徒の学習意欲を喚起する発問を吟味することが求められます。また、教科書や地図帳の資料にも生徒の興味・関心を引く導入のしかけがあるので、ぜひこれらも活用して導入を工夫していきましょう。



乾季(3月)



雨季(9月)

写真 『社会科 中学生の地理』p.37〔④乾季と雨季のトンレサップ湖の風景〕(カンボジア)(写真:久保 純子)

ポイント②



〈?〉から〈!〉へと導く教材の提示と発問がよい導入のKey Point

その三 教科書・地図帳の資料を活用した導入

(1) 写真の比較から疑問を引き出す事例

比較、関連、変化、類推、予想、分類、総合などの思考活動のなかで最も容易であると考えられるのは、比較とされています。例えば二つの資料を比較することでその違いを把握し、その違いの要因(原因)を探る思考活動です。この思考活動を導入として活用します。

○『社会科 中学生の地理』(以下、教科書) p.37

〔④乾季と雨季のトンレサップ湖の風景〕(写真)

※授業では「乾季」「雨季」の表示を隠した二つの写真の拡大を提示しておきます。

T(授業者): この二つの写真は、同じ地域の3月と9月の写真です。二つの写真を比較して、目立つ違いは何ですか?

P(生徒): 3月は地面が見える。9月は水でおおわれて湖のようになっている。洪水?

T: 洪水ではありません。毎年この時期になるとこのような現象が現れます。なぜ、このような現象になるのでしょうか?

P: 雨がたくさん降る。

T: どれくらい降るだろうか? 9月の写真を見て、気づくことは?

P: 大きな船が浮かんでいる。

T: 船の大きさから水深はどれくらい?

P: 深そうだよ。

T: 我が国の梅雨や台風のときと同じくらいの降水量による増水なのかな? 『中学校社会科地図』(以下、地図帳) p.12の雨温図で東京とバンコクの9月の降水量を比較してみよう。

P: 東京の2倍近い降水量です。

T: 東京の梅雨や台風の時期の2倍近くの降水量だね。タイやカンボジアでは、これだけの雨が降る時期と東京の冬の時期よりも雨が少ない時期があるね。なぜ、このような現象になるのかな? この原因を調べてみよう。

この事例では、アジア州の自然環境の学習において、上記の写真を活用して、雨季と乾季との違いに着目させ、アジア州の気候に影響を与えている季節風(モンスーン)の存在に気づかせる学習活動を導入としました。2枚の写真の違いの中でとくに雨季の船に着目させ、雨季の降水量の多さを生徒に実感させることで今後の学習への追究意欲を引き出していく導入です。

ポイント③



写真の読み取りは、思考の広がりにつなげる視点を明確にすること

(2) 世界の州や日本の地方の導入写真ページを活用した単元の学習の導入

各州や各地方の導入写真ページの写真は、そ

※「?」から「!」へ: 全国中学校地理教育研究会主催 [フィールドワーク in Japan] のスローガン

それぞれ自然環境と生活、歴史や文化・宗教、産業と生活など、その地域の特徴を示した写真となっており、その後の学習につながる意図を含んでいます。それぞれの写真が示している場所の位置を地図上で確認して州や地方の広がりを確かめるとともに、写真が示している事象から自然環境と生活、文化・宗教、産業の多様性に着目させましょう。とくに世界の各州の導入では、導入写真ページの写真を眺めて、「知っていることは？」、「気がついたことは？」と問いかけることで、生徒自身の思いとのズレや意外性に気づかせ、その後の学習への関心・意欲を高めることが大切です。

○教科書p.64～65「アフリカ州」

T：①～⑥の写真を見て、気がついたことは？

P：①の写真では、象がいて、暑い地域だと思っていたけれど、山に雪がある。②と⑥の写真は暑そうだよ。⑤の写真でも熱帯性の作物が見えるね。

T：そう。p.65の地図を見ると①の写真は赤道の付近であることがわかるね。それなのになぜ、山には雪が降るのだろうか？アフリカの気候について調べてみよう。

アフリカ州は熱帯や乾燥帯で雪は降らないという生徒の思い込みを予想し、赤道付近でも高山気候や高原のサバナ気候に気づかせ、アフリカ州の気候の学習につなげていきましょう。

中国・四国地方の事例では、他地域との結びつきにつなげる導入として次のような問いかけが考えられるでしょう。

○教科書p.182～183「中国・四国地方」

T：①，②，④の写真及びキャプションに共通することは何ですか？

P：海上交通

T：そう。昔から海上交通がさかんな地方だったのかな？では、①の写真に示されている連絡橋はなぜつくられたのだろうか？①と⑤の写真の関連を考えてください。

P：⑤のビニールハウスでつくられた作物が①のしまなみ海道を通して運ばれているのではないかな。

T：どこへ運ばれているのかな？中国・四国地方は交

通＝他地域との結びつきという視点で調べていこう。

(3) 地図帳の鳥瞰図を活用した単元の学習の導入

地図帳のp.25～26（中国とそのまわりのようす）、p.51～52（ヨーロッパのようす）、p.63～64（アメリカ合衆国のようす）の3か所に鳥瞰図が掲載されています。鳥瞰図は地形の起伏がわかりやすく表現されており、一般図よりも高低差が読み取りやすく、とくに山脈・高原がわかりやすいことが特徴です。この特徴をいかして地形の学習の導入を工夫しましょう。

○地図帳p.25～26「中国とそのまわりのようす」

※1人はp.25～26を、その隣の席の生徒はp.23～24の東アジアの地図を開き、2人1組となって両方の地図を見比べながら作業する。

T：長江（チャンチャン）を河口のシャンハイから上流まで指でなぞってごらん。河口の部分で何か気づくことはないかな？

P：河口の幅が広い。

T：日本の地図と比較してごらん。

P：途中に大きな湖がある。大きなダムもある。

P：山々の間を曲がりくねって流れている。

P：チベット高原の中までたどり着いたよ。

T：およそどれくらいの長さだろう？p.23～24の地図で日本列島と比較してみよう。

P：地図帳p.156の統計資料では長江の長さは6380kmだよ。日本列島のおよそ2倍の長さだ。

T：この鳥瞰図から川の長さ、山脈の長さ、平野の広さを想像してみよう。

鳥瞰図は地形の起伏を強調して表現するために面積・距離等は正確ではありません。よって広さや長さを比較するときには、一般図を活用して照合しながら作業をする必要があります。この事例では、読み取りやすい河川をなぞることでその長さや流域の広さ・景観を実感させ、地形の学習の意欲を引き出すようにしています。

ポイント④



導入では、地域のイメージを広げる問いかけ、作業を工夫すること